第100回定期演奏会　ストラヴィンスキー「春の祭典」

立命館大学交響楽団特別演奏会大分公演

ドヴォルザーク　交響曲第８番　ト長調

ブラームス　ハイドンの主題による変奏曲

ブラームス　大学祝典序曲

指揮◆　阪　　哲　朗（客演）　髙倉　寛人（学生）

2013年2月27日（水）

iichiko総合文化センター　iichikoグランシアタ

開場 18：00　開演 19：00

全席自由

【一般】1000円　【大学生以下】700円［学生証提示］

※誠に勝手ながら、未就学児のご入場はご遠慮いただいております。

チケット販売場所　●チケットぴあ（各店舗、サークルK・サンクス）／Pコード予約　Pコード：184-854
TEL 0570-02-9999（24時間受付可）
●立命館大学生協衣笠・BKC・APUプレイガイド

■お問い合わせ　http://ruso.s297.xrea.com/　E-mail ruso_info@yahoo.co.jp　TEL 090-6559-2985（広報：除上（よけがみ））

後援：大分県、大分県教育委員会、大分市、大分市教育委員会、別府市、別府市教育委員会、
大分合同新聞社、NHK大分放送局、OBS大分放送、TOSテレビ大分、OAB大分朝日放送、エフエム大分、
OCT大分ケーブルテレコム、CTBメディア、おおいたインフォメーションハウス

九州・沖縄から 文化力 POWER OF CULTURE

立命館大学交響楽団

立命館大学交響楽団は昭和30(1955)年に創団された。第一回目の演奏会は本学の合唱団との合同開催であったが、その演奏会以降活動を定着させ、平成20(2008)年12月には第100回目の定期演奏会を開催するに至った。草創期のきわめて小規模のオーケストラが、現在では常時150人以上の団員を有する学内最大規模の活動団体に成長、年2回の定期演奏会を中心に、「地域に根ざした学生オーケストラ」として京都・滋賀・大阪などで多彩な活動を展開している。

立命館大学の誇る学生団体として各種の学園・大学行事にも参加、定期演奏会もしばしば大学行事として位置づけられている。昭和56(1981)年の「大学創立80周年・衣笠移転事業完成記念 第46回定期演奏会」での「第九」の公演以来、平成6(1994)年には「びわこ・くさつキャンパス(BKC)および政策科学部開設記念 第72回定期演奏会」において、マーラーの交響曲第2「復活」に挑戦、また平成12(2000)年には「立命館創始130年・大学創立100周年 第84回定期演奏会」を成功させてきた。平成9(1997)年、平成11(1999)年には「立命館アジア太平洋大学開学記念事業」として別府市・大分市での演奏会を開催するなど、立命館学園の発展とともにその活動範囲も拡大しつつ「地域に根ざした学生オーケストラ」として、びわこ・くさつキャンパス(BKC)に近いびわ湖ホールでの定期演奏会を定例化、市民の皆様にも好評を博している。平成16(2004)年には楽団創立50周年を迎え、ドイツを拠点として活躍中の阪哲朗氏をオーケストラアドバイザーとして招聘、長期的視点での楽団の育成・強化に取り組み、技術・運営両面でのさらなる活動水準の向上を目指している。

近年の活動としては、平成21(2009)年には金聖響氏による通年でのご指導をいただき、ブラームスの交響曲第4番、ブルックナーの交響曲第9番を演奏、学生オーケストラにとどまらない水準の音楽表現を目指した。2011年度にはハイドンの第101番「時計」を第103回定期演奏会では大河内雅彦氏に、2010年度サマーコンサートでは阪哲朗氏の指揮の下で演奏し、異なったアプローチで音楽を創り上げた。同年12月の第104回定期演奏会ではチャイコフスキーの交響曲第6番「悲愴」を演奏し、2011年度の第105回定期演奏会ではドヴォルザークの交響曲第9番「新世界」を横島勝人氏に、同年12月の第106回定期演奏会ではマーラーの交響曲第1番「巨人」を寺岡清高氏の指揮の下で演奏した。また京都府主催の第26回国民文化祭でコンサートを行うなど、地域への還元活動も行っている。今年度は第107回定期演奏会でベートーヴェンの交響曲第3番「英雄」を大河内雅彦氏の指揮の下で演奏し、サマーコンサートではピアノ研究会との共催でグリーグのピアノ協奏曲を演奏した。

阪　哲朗

阪哲朗は欧米での客演が数多く、これまで主にドイツ・オーストリア・スイス・フランス・イタリアなどで約40に及ぶオーケストラ、歌劇場に招かれ成功を収めている。日本ではNHK交響楽団をはじめ各地の主要オーケストラ、新国立劇場、二期会などのオペラ団体を指揮している。

とりわけ2008/09年の年末年始に、ウィーン・フォルクス・オーパーで、同歌劇場の年間のハイライトとも言うべき公演である「こうもり」を指揮し、大変な話題となった。

地元ウェブ・サイト“オペラ・ウィーン”では『成功した大晦日』と題して、“阪哲朗によるオーケストラは、躍動感あふれる熱のこもった演奏をした。それどころか弦楽器には官能的に悦びにふける何かさえあった”と絶賛された。その後も同歌劇場では2010/11年シーズン最終公演の「トスカ」を、2011/12年のシーズンは「蝶々夫人」の8回公演を指揮している。

京都市出身。京都市立芸術大学作曲専修にて廣瀬量平氏らに師事。卒業後、ウィーン国立音楽大学指揮科にてK・エステルライヒャー、L・ハーガー、湯浅勇治の各氏に師事。1992年、スイス(ベルン州)ビール市立歌劇場専属コレペティトゥーア兼指揮者、1997/98年ブランデンブルグ歌劇場 専属第一指揮者、1998/99年のシーズンからはベルリンの コーミッシェ・オーパー専属指揮者を歴任。同歌劇場では、1999年H・クプファー新演出による「天国と地獄」、2000年A・ホモキ演出による「ファルスタッフ」、2001年2月M・シューラー新演出による「リゴレット」などを手がけ、2002年7月までに約20演目170回余を指揮した。2005/06年のシーズンより、アイゼナハ歌劇場(ドイツ・テューリンゲン州)の音楽総監督、2007年4月より、山形交響楽団首席客演指揮者を務める。2009/10年のシーズンより、レーゲンスブルク歌劇場(ドイツ・バイエルン州)の音楽総監督(GMD)に就任後、レーゲンスブルクにおいて、オペラ、コンサート併せて年間約50回の公演回数をこなしている。就任後、最初のプレミエ「トスカ」を皮切りに、地元バイエルン州出身の作曲家シモン・マイヤーの「ウリッセの帰還」の蘇演、ニーチェを主人公にした委嘱オペラ「ツァラトゥストゥラ」、「ローエングリン」「こうもり」「死の都」、「トゥーランドット」「エレクトラ」「ファルスタッフ」、2012/13年のシーズンは「オルフェオとエウリディーチェ」「アイーダ」「カーチャ・カバノヴァ」のプレミエなどが予定されている。

コンサートの分野では、スタンダードな作品のみならず地元にゆかりのある作曲家の作品を積極的に取り上げ、市内の青少年合唱団、大学の合唱団そして歌劇場の合唱団と共にハイドン「天地創造」を上演し、2012年7月にはレーゲンスブルク少年合唱団とモーツァルトのミサ曲を上演、市の音楽総監督として年々新たな聴衆、定期会員を獲得することに成功している。

1995年「第44回ブザンソン国際指揮者コンクール」優勝、1996年京都府文化賞奨励賞、1997年度ABC国際音楽賞、2000年京都市芸術新人賞、2000年第2回 ホテルオークラ音楽賞、2004年度第12回渡邉暁雄音楽基金音楽賞、2006年度第26回藤堂顕一郎音楽賞受賞。

iichiko 総合文化センター

【会場へのアクセス案内】

■JRでお越しの場合
JR大分駅から徒歩約10分

■車でお越しの場合
九州横断自動車道・大分ICから車で約7分
国道10号線・別府市内から車で約25分